



せい しん つう しん
聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 齊藤 隆浩

第4号 2021年6月30日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号
 URL <https://.spr-sacred-heart.ed.jp>

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)
 FAX 011-612-0980

校庭の緑が鮮やかさを増し、夏の訪れを実感する日々です。対面授業が再開し、生徒たちも互いに元気な顔が見られることに喜びを感じているようです。引き続き感染症対策に留意しながら、皆が今できることに精一杯取り組める環境を作っていこうと思います。

7月の予定 

Congratulations!!

◎ 2021年 第27回在日本韓国学生韓国語弁論大会
 在日韓国大使賞 高3-G 山岡 詩恵 さん
 (第1位)

◎ 『風に立つライオン基金』主催
 「高校生ボランティア・アワード2020」
 シンボルロゴマーク 優秀賞
 高1-G 原田 安珠 さん



みこころの祝日

6月22日(火)に全校生徒で聖心の祝日記念行事を行いました。校内外の清掃や地域のゴミ拾い、お寺や美術館の清掃のお手伝い、公園の花壇の整備など、生徒たちはボランティア活動に励みました。高校1年生はタイ・ナワミン校とオンラインでの交流を行いました。イエス・キリストのみこころの生き方になって、それぞれの活動に精一杯取り組めた一日となりました。



	行事	お弁当
1(木)	高3 前期期末考査④ 中2GS探究 着付け・お茶体験	要
2(金)		要
3(土)	全校講話①「SNS」(3校時) 父の会総会オンライン(13:00~14:00) 父の会聖書サークル(16:00~17:30)	不要
4(日)		
5(月)		要
6(火)	中2 千歳川清流下り 母の会聖書サークル③(10:30~、Sr.田口)	※
7(水)	放送朝礼オンライン 梅干し弁当募金① 課題研究ミーティング③	要 (梅弁)
8(木)	校内漢字コンテスト①(1校時)	要
9(金)	高校 進研模試①	※
10(土)	NY国連研修報告会(3校時)	不要
11(日)		
12(月)		要
13(火)		要
14(水)	全校講話②「交通安全・薬物」(7校時)	要
15(木)		要
16(金)		要
17(土)	終業日 帰省日	不要
18(日)	夏季休業(~8/24) 小5・小6対象 夏の体験教室	
19(月)		
20(火)	中学校教員対象説明会	
21(水)		
22(木)	海の日	
23(金)	スポーツの日	
24(土)		
25(日)		
26(月)		

※ 必要な方は昼食をご用意ください。

Welcome to 札幌聖心!

東京の姉妹校である聖心
 インターナショナルナシ
 ョナルスクールから、クラ
 ーク・エリさんが体験入学に
 来ています。

7月17日(土)まで、中3
 と一緒に過ごします。



世界難民の日プロジェクト

6月20日(日)は「世界難民の日」でした。「世界難民の日」とは、国連総会によって、難民の保護と支援に対する世界的な関心を高めるために制定された日です。

札幌聖心では昨年に引き続き今年は6月24日(木)を私服デイとし、国連旗で使われている水色と白色を取り入れた私服を着用して登校、または制服の生徒は水色又は白色のリボンを胸元につけ、世界の難民の方々に思いを馳せました。また、難民支援のための寄付金を一人ひとりから集め、国連 UNHCR 協会に寄付します。



今月の聖句

アンデレがイエスに言った、「ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう」。イエスは「人々をすわらせなさい」と言われ、・・・パンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた。

ヨハネ福音書 6章 8～11節

一人の少年が五千人の飢えた人々のために、自分のお弁当を差し出したことから、集まっていた大人の気持ちが変わり、自分のためにとっておいた食料をそれぞれ差し出すことができ、その結果は足りないと思われていた食べ物が豊かにありあまるほどに人々を養ったと解釈できるこのお話は、まさに現在の世界の状況そのものです。世界には食料は十分にあります。しかし、多く持ちすぎて捨てる人もいる一方、8億人以上の人々が飢えています。5秒に一人の子供が命を落としているというこの状況を少しでも変えるために、札幌聖心の教育は行われています。

自分の殻から一步踏み出して、相手に心を開いて自分の食糧を分かち合ったこの少年の行動は、周囲を変えました。一人の子供のお弁当が惜しみない気持ちで差し出される時、五千人もの人々の気持ちを変え、行動を変え、その場を素晴らしい分かち合いの喜びの場となったのです。聖マグダレナ・ソフィアは、若いときに「聖心のシスターとして何を大事にしますか」と問われ、「惜しみない心」と答えています。

コロナ禍の中で仕事を失い不安定な状況にある外国人の方々への食糧支援プロジェクトへの参加を国連研修6期生が呼び掛け、生徒や教職員に加えて、卒業生やその保護者の方々からもご協力がありました。まさにこの聖書の箇所と同じだと感じています。「小さな行動もつながりによって大きくなっていくんだなあ実感します」と言う生徒の想いにそのつながりを作ることこそ、私たちの目指すことだと思いました。そのつながりを作り出したイエスの開かれたみこころの想いを一人ひとりが祈りと行動で伝えていけますように。本校の学校教育目標の英語訳は“Action from an Open Heart”です。

[担当：チャプレン Sr.田口保子]